

園長のつぶやき④

前号の「園長のつぶやき③」で、子どものほめ方のポイントに触れましたが、社会で生きていくために、ときには心を鬼にして「ダメなものはダメ」と教えることも必要です。

子供を叱る際に意識すべきポイントとして、以下の点が挙げられます。



1 安全に関わる時や、道徳的ルールを守らないときなど、叱るべき場면을大人が理解する。

- ・ 社会にはルールがあります。たとえば公共の場所では騒がないこと、園や学校などでは友だちをいじめたり、悪口を言ったりしないということです。
- ・ 子どもはやってよいことと悪いことの区別がついていないこともあり、親が叱ってそれを教える必要があります。

2 昨日と今日で言うことを変えない。

- ・ 一貫性をもって叱らないと、子どもは親に不信感を抱きます。また、父親と母親もしつけに関して話し合い、統一性をもちましょう。人によって言うことが違うと、子どもは迷ってしまいます。

3 目線を合わせて、なぜ叱られているのか理由を分かりやすく伝える。

- ・ 子どもの話を聞いてまずは肯定して、子どもの気持ちに寄り添いましょう。そのあとなぜ叱っているのか、理由を伝えましょう。このとき、何がいけないのか具体的に伝えることも大切です。

4 やってはいけないことをしたら、その場ですぐに短く叱る。

- ・ 子どもがやってはいけないことをしてから、時間をあけて叱ってしまうと、子どもはなぜ叱られてしまうのかわからなくなってしまいます。
- ・ また、長々と叱っても子どもはだんだん聞き飽きてしまうため、叱る理由は端的に伝えるようにしましょう。

5 感情的に怒鳴ったり、人格を否定するような言葉を使わない。

- ・ 「怒るのは感情ですが、叱るのは教育です。」子どもに対して怒りの感情が湧いていたら、いったん落ち着いて深呼吸をするのがおすすめです。
- ・ 「あなたはダメな子ね」や「本当に悪い子ね」といった子どもの人格を否定するような叱り方は、子どもを過剰に傷つけてしまうため、しないようにしましょう。「今、あなたがやった（言った）○○が良くない。」など今の言動だけを叱りましょう。

6 叱った後はフォローし、「大好きだよ」と伝える。

- ・ 叱ることは重要ですが、その後のフォローも大切です。叱った後に、よい行動を見せた場合は、すかさず褒めることで、子どものモチベーションが向上し、よい行動を続ける可能性が高まります。

バランスの取れた叱り方と褒め方を通じて、子どもとの信頼関係を築いていきましょう。